

教科名	認知症介護実践者等養成事業の実施	研修形態と講義時間： 講義（3時間）
目的	認知症介護実践者等養成事業における各研修の目的や実施の背景、認知症介護指導者養成研修修了者（以下「指導者」という。）の役割について理解し、各研修の現状と課題を踏まえた実施方法を具体的に把握する。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 認知症介護実践者等養成事業の目的と実施の背景を理解できる。 2. 実践者研修、実践リーダー研修の目的とカリキュラムを理解できる。 3. 開設者研修、管理者研修、計画作成者研修の目的とカリキュラムを理解できる。 4. 基礎研修の目的とカリキュラム及び実践方法を理解できる。 5. 実践者等養成事業の展開状況を理解できる。 6. 認知症介護指導者の役割ごとの具体的実践事例を理解できる。 	
概要	認知症介護指導者として実践研修を担うために認知症介護実践者等養成事業の概要を理解する。特に平成28年度カリキュラム改訂の背景と改訂内容を理解する。また、基礎研修については、その内容や実施方法を具体的に把握する。	
内 容		備 考
1. 認知症介護実践者等養成事業の目的と実施の背景	<p>認知症介護実践者等養成事業の目的やカリキュラムを理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 認知症介護実践者等養成事業の目的 2) 旧実践者研修、実践リーダー研修の概要とカリキュラム 3) 平成28年度カリキュラム改訂の背景 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎課程・専門課程についても触れる。
2. 実践研修等の概要と実施の方法	<p>実践者等養成事業において実施する各研修の実施の経過や概要を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 実践者研修、実践リーダー研修、開設者研修、管理者研修、計画作成者研修の対象、カリキュラム、修了要件 2) 基礎研修実施の背景 3) 目的、位置づけ、対象者、具体的内容 4) 基礎研修の具体的実施方法 5) 実践者研修、実践リーダー研修の都道府県ごとの修了者数、都道府県ごとの指導者数等 6) 各県での研修の効果評価結果 7) 各県において報告されている研修の課題やその対策等 	<ul style="list-style-type: none"> ・厚生労働省による通知を用いて説明する。
3. 指導者の役割と実践的な取り組み	<p>認知症介護指導者の役割と具体的な取り組みの事例を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 認知症介護指導者の役割、活動状況 2) 認知症介護指導者の実践事例 	<ul style="list-style-type: none"> ・行政からの情報収集等を基にセンターにおいて作成する。 ・認知症介護指導者をゲストスピーカーとして事例報告を行う。

教科名	認知症ケアに関する施策と行政との連携	研修形態と講義時間： 講義（3時間）
目的	認知症ケアに関連する施策の動向及び施策に位置づけられた認知症ケアの専門職の役割やスキルを理解する。行政の役割を理解し、行政と効果的に連携・協働するための視点を理解する。	
到達目標	1. 認知症ケアに関連する施策の動向及び施策において位置づけられている人材の役割やスキルを理解できる。 2. 認知症介護指導者として、都道府県・市町村行政とどのように連携を図ればよいか、事例を基に理解できる。	
概要	認知症の人の支援に関連する施策は、認知症ケアの発展の経過と共に変化しており、その経過の学習は、今後の認知症ケアを発展させるために重要である。また、研修実施においては、最新の情報を適切に研修に反映することが求められる。本教科では、認知症施策の経過をどのように伝えるかを学習する。	
内 容		備 考
1. 認知症ケアと認知症関連施策の歴史	認知症介護施策の歴史をケアの考え方の変遷とともに理解する。 1) 認知症ケアの歴史 2) 2015年の認知症介護 3) 認知症の医療と介護の質を高める緊急プロジェクト	・最新の施策の動向を具体的な実践事例を交えて説明する。 ・施策に応じ、最新の情報を提供する
2. 認知症施策の動向	最新の認知症施策の動向を理解する。 1) 地域包括ケアシステム 2) 認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン） 3) 認知症ケアパスと初期集中支援チーム 4) ライフサポートモデル研修 等最新の施策	
3. 関連専門職の役割とスキル	認知症介護指導者と協働する可能性のある専門職等について、役割とスキルを理解する。 1) 地域支援推進員の役割と学習内容（研修カリキュラム）及び具体的実践事例 2) 認知症疾患医療センターの役割 3) 認知症専門医の役割と学習内容（研修カリキュラム） 4) かかりつけ医研修の役割と学習内容（研修カリキュラム） 5) 認知症認定看護師、専門看護師の役割と学習内容（研修カリキュラム） 6) 認知症ケア専門士の役割と学習内容（研修カリキュラム） 等	
4. 指導者と行政との連携のポイントと事例	認知症介護指導者として、都道府県・市町村行政とどのように連携を図ればよいか、事例を基に理解する。 1) 行政との連携のポイント 2) 認知症介護指導者と都道府県との連携事例 3) 認知症介護指導者と区市町村の連携事例	

教科名	研修の目標設定と研修総括	研修形態と講義時間： 講義・演習（13時間）
目的	認知症介護指導者養成研修の目的を踏まえ、自己課題を設定し、その達成状況について自己評価できる。自己課題の設定とその評価の経験を基にして、指導者としての自己研鑽のあり方を理解する。	
到達目標	1. 指導者養成研修の位置づけと目的を踏まえて、研修目標を達成するための自己課題を設定することができる。 2. 設定した自己課題の達成状況について、自己評価できる。 3. 研修での自己の学習成果及び今後の自己研鑽のあり方を明らかにすることができる。 4. 研修修了後、認知症介護指導者としてのネットワークのあり方を理解できる。	
概要	認知症介護指導者養成研修においては、研修の位置づけと目的に合わせ、対象要件を設定されているが、受講者は多様なサービス種別において、それぞれの資格や職位に応じた多様な学習・経験を有している。それぞれの受講者が、指導者養成研修の研修目標の達成を目指すにあたり、どのように学習を進めればよいかを考え、達成可能な自己課題を設定すること、そしてその達成状況について評価することが本教科の目標である。また、研修成果の総括や、研修修了後のネットワークのあり方について理解する。	
	内 容	備 考
1. 目標設定の理解と方法	認知症介護研修における目標設定の意義を理解し、認知症介護指導者養成研修における自己課題を設定する。 1) 本教科の目的 2) 目標設定の方法について 3) 指導者養成研修における自己の目標設定	
2. 今後の課題の検討	設定した自己課題の達成状況を、自己評価する。 1) 目標の達成度と、達成度を評価した根拠、達成できなかった（できなかった）理由の検討 2) 今後の取り組みの方向性及び取り組み方法について検討	
3. 修了後の課題の検討	前期研修あるいは研修全体での学習成果を振り返り、今後の自己研鑽のあり方を明らかにする。 1) 研修全体での学習成果の振り返りと言語化 2) 修了後の課題設定	・前期研修修了時、及び研修修了時に検討する。
4. 指導者のネットワークについて	研修修了後、関係者とどのようなネットワークを構築し、維持・発展させていけばよいか理解する。 1) 研修修了後のネットワークのあり方 2) ネットワークのツールとしての認知症介護情報ネットワーク（DCnet）の活用	

教科名	教育方法論	研修形態と講義時間： 講義・演習（20 時間）
目的	認知症ケア現場や認知症介護実践者等研修において、活用する技法やツールの特徴を理解し、それらを活用して、実践者の課題解決力を高めるための支援ができる。	
到達目標	1. 認知症ケア現場や実践研修等で、活用する討議法、課題分析の技法、事例検討法等の演習技法や認知症ケアに関連するツールの特徴を理解できる。 2. 認知症ケアで活用する可能性のある課題解決のための技法やツールの特徴を理解し、課題解決力を高めるための教育・指導のあり方について体験的に理解できる。	
概要	認知症ケアの実践においては、様々な目的で技法やツールが用いられている。技法やツールは、目的や方法、有効性の検証結果等を正しく理解した上で意識的に活用する必要がある。本教科では、認知症介護実践者等養成事業における研修を実施する際にベースとなる基本的な課題解決技法や認知症ケアに関するツールについて概観し、適切に教育に反映させるための視点を身につける。	
内 容		備 考
1. 討議法の特徴と活用	Off-JT で活用する技法のひとつとして、討議法を理解する。 1) BS 法、3 段階討議法、ワールドカフェ、ディベート等の具体的方法及び活用例 2) ファシリテーターの役割とファシリテーション技法	
2. 課題分析に関する技法	Off-JT で活用する技法のひとつとして、課題分析に関する技法を理解する。 1) マンダラート（Q シート）、KJ 法、セブクロス法等 2) 図解、ロジックツリー、関連図等	
3. 事例検討法の特徴と活用	ケースメソッド、インシデントプロセス法等事例検討法の具体的方法及び活用例を理解する。	
4. 認知症介護に関連するツール	認知症介護に関連するツールの特徴を理解する。 1) ひもときシート 2) 家族支援スキルアップ研修 3) 初めての認知症介護 4) 大府センター式コミュニケーションパック 等	・研究や施策に応じ最新の情報を提供する。
5. 認知症介護実践における課題解決技法の活用（演習）	認知症介護実践における課題解決技法の活用方法と指導のあり方について体験的に理解する。 1) 本研修で課題解決技法を学ぶ意義 2) 実践と技法・ツールの関係とエビデンスレベル 3) 課題解決演習	

教科名	授業設計法	研修形態と講義時間： 講義・演習(28時間)
目的	認知症ケアにおける授業(講義・演習)計画書の作成の際に必要な基本的考え方や方法を理解する。模擬授業の計画作成を通して、授業のあり方について理解し、授業のねらいを踏まえた教材を準備することができる。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 認知症ケアにおける授業を計画する際に必要となる基本的考え方を理解できる。 2. 授業計画書の作成におけるねらいの設定の考え方について理解できる。 3. 授業のねらいを達成するための学習内容と授業の構造のあり方を理解できる。 4. 授業の作成と効果的な授業実施のポイントを理解できる。 5. 授業の評価と改善方法を理解できる。 	
概要	実践研修は、均質な授業を提供するという観点から、再現性の高い授業計画書を準備することが不可欠である。本教科では、効果的で再現性の高い授業計画の作成の基本的考え方、実施方法及びその評価方法を講義・演習を通じて体験的に学習する。	
	内 容	備 考
1. 授業計画や教材作成の基本的考え方	<p>認知症介護における授業計画及び教材作成の基本的考え方を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 授業計画作成の目的と意義 2) 授業計画の構造・構成 3) 講義・演習の特徴・意義 4) 教材検索、教材開発、教材選択のポイント 	
2. 授業計画におけるねらいの設定	<p>授業計画作成におけるねらいの設定の考え方を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 現場の課題を踏まえたねらいの設定 2) 授業の条件を踏まえたねらいの設定 3) 受講者の力量の把握と設定 	
3. 授業のねらいを達成するための学習内容と授業の構造	<p>授業のねらいを達成するための学習内容と授業の構造のあり方を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 実践の振り返りと先行研究の把握 2) 講義・演習の組み合わせ方 	
4. 授業計画作成及び効果的な授業実施のポイント	<p>授業計画作成及び授業実施のポイントを理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 講義・演習実施のポイント 2) チーム編成の視点 3) 時間配分 4) ファシリテーターとの協働 	
5. 授業の評価と改善方法	<p>授業の評価と評価に基づいた改善の方法を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 授業評価の目的 2) 授業評価のためのデータ 3) 評価を踏まえた授業改善の考え方と具体例 4) テストの実施方法 	
6. 授業計画及び教材作成(演習)	グループワークにより授業計画、教材作成を行う。	

教科名	模擬授業	研修形態と講義時間： 演習（14時間）
目的	授業のねらいを踏まえた授業計画に基づく講義及び演習を展開できる。模擬授業での演習の成果や、評価結果に基づいて、授業のねらいや内容、方法について改善のための提案ができる。	
到達目標	1. 授業のねらいにそって、授業計画に基づき、講義・演習を展開できる。 2. より効果的な授業を構築・展開するために授業のねらい・内容・方法について改善のための提案をすることができる。 3. 授業の評価を踏まえて、内容を修正・改善することができる。	
概要	本教科では、実際に計画した講義・演習の一部をロールプレイ形式で実施し、授業のねらいに対する授業の内容の適切さ、講師役の教授のあり方、教材の有効性等、講義・演習のあり方について、受講者同士で相互評価することにより検討する。また、評価結果を踏まえて、授業の内容を修正する過程を通じて、効果的な研修実施とその改善方法を理解することを目指す。	
	内 容	備 考
1. 模擬授業の実施	模擬授業の実施により、授業計画や授業の実施方法について体験的に理解する。 1) 授業案の解説（授業のねらい、全体の構成、実演する部分） 2) 授業の計画に則り、模擬授業を実施	
2. 受講者間の討議による模擬授業の評価	受講者間の討議により、授業の実施内容について評価を行う。 1) 模擬授業の実演結果についての討議 2) 模擬授業での学習成果のまとめ	
3. 模擬授業の修正	授業の実施と評価を踏まえて、授業計画、授業の教材を修正する。	

教科名	研修企画と評価	研修形態と講義時間： 講義・演習（7時間）
目的	研修の位置づけや受講者の力量等研修の条件に合わせた研修目標やカリキュラム構築及びその評価方法の基本的考え方について理解し、適切な研修企画ができる。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研修カリキュラム構築のための基本的知識を理解できる。 2. 研修の位置づけや受講者の受講準備状況（力量）等を踏まえた、研修目標の設定方法を理解できる。 3. 研修目標や研修の諸条件（時間数、費用等）に応じ、研修カリキュラムを構築する際の内容や順序のあり方を理解できる。 4. 実践研修のカリキュラムの評価の考え方及び方法を理解できる。 	
概要	<p>認知症ケアにかかわる人材育成においては、必要となる知識・技術が多岐にわたることから、単発のOff-JTを実施するだけでなく、複数の研修を効果的に組み合わせて実施することにより、OJTに生かしていく必要がある。また効果的な研修を展開していくためには、各研修や研修カリキュラムが目的に沿った成果を上げているか評価をすることが不可欠である。本教科では、認知症ケアにおける研修カリキュラムの構築のあり方及びその評価方法を理解する。</p>	
	内 容	備 考
1. カリキュラムの基本的知識	<p>研修カリキュラム構築のための基本的知識を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 研修カリキュラム構築を学習する意味 2) 研修カリキュラムとは 3) 研修カリキュラム構築の基本的なプロセス 4) シラバスの位置づけと役割 	
2. 研修目標の設定	<p>研修目標の設定方法を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 研修目標とは 2) 研修受講者の受講準備状況（力量）の把握と評価 	
3. 研修内容と順序の検討	<p>研修カリキュラムを構築する際の内容と順序のあり方を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 研修目標と研修内容の関係 2) 研修の順序と学習効果 3) 研修講師選定の基本的考え方と講師依頼のポイント 4) 事前課題の設定 5) 研修を構築する際に検討すべき諸条件（対象要件、修了要件、1コマの時間数、休憩、受講定員、受講料等）の考え方 	
4. 研修カリキュラムの評価	<p>研修カリキュラムの評価の考え方及び方法を体験的に理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) カリキュラムの評価の目的・意義 2) 研修の目的に合わせた評価対象と評価時期の設定 3) 実践者研修の評価方法（演習） 	

教科名	人材育成論	研修形態と講義時間： 講義（3時間）
目的	認知症ケアの特徴を踏まえた人材育成について理解する。キャリアパス構築等効果的な人材育成のための組織体制づくりのあり方を理解する。	
到達目標	1. 人材育成の基本的考え方と認知症ケアの特徴を踏まえた人材育成について理解できる。 2. 人材育成における動機づけの重要性と動機づけを高めるための方法を理解できる。 3. ケア現場における効果的な人材育成のための組織体制づくりのあり方を理解できる。	
概要	認知症介護指導者は、実践者等養成事業における研修の他、地域における認知症ケアに関連するあらゆる組織の中で人材育成に関与する可能性がある。本教科では、認知症介護実践者等養成事業設立の経緯を踏まえ、認知症ケアにおいて、効果的な人材育成を展開していくための基本的知識をおさえる。また、認知症ケアにおいては、認知機能の低下や認知症の人の個性等に応じた個別ケアが求められる。そのためには、自ら考え行動する人材を育成する必要がある、学習した成果を現場で活用するための動機づけを高めることも重要となる。そのような認知症ケアの特徴に合わせた人材育成のための視点や条件整備・仕組みづくりなどの組織的な取り組みのあり方を理解する。	
内 容		備 考
1. 認知症ケアにおける人材育成の特徴	認知症ケアにおける人材育成の特徴を理解する。 1) これまでの人材育成とこれからの人材育成 2) OJT、Off-JT、SDS の定義と人材育成における活用の基本的考え方 3) 初任者・新任者への OJT	
2. 人材育成における動機づけ	人材育成における動機づけの重要性と動機づけを高めるための方法を理解する。 1) 認知症ケアに関する学習 2) 認知症高齢者の理解の難しさ 3) 認知症ケアの理解の難しさ 4) 受講者の動機づけを高める方法	
3. 効果的な人材育成のための組織体制づくり	効果的な人材育成のための組織づくりのあり方を理解する。 1) 中堅以上の職員の動機づけを高める人材育成 2) キャリアパスの構築と支援 3) 自己啓発の促進 4) 内発的動機づけを高める方法 5) ワークプレイスラーニング	

教科名	成人教育論	研修形態と講義時間： 講義・演習（4時間）
目的	成人教育学における成人の特徴を理解し、効果的な支援のあり方を考察する。	
到達目標	1. 成人教育の基本的考え方を理解できる。 2. 成人教育における、教育者の役割を理解し、倫理的視点を醸成する。 3. 成人教育の考え方を実践研修等研修における学習支援に活用する方法を理解できる。	
概要	認知症介護実践者等養成事業は、基礎教育と異なり、現に実務に従事している成人に対する現任教育である。そのため、効果的な研修プログラムを構築し実践していくためには、学校教育における教える一教えられる関係と異なり、成人教育の特徴に配慮した働きかけが求められる。本教科においては、そのような学習する成人の特徴を理解し、その特徴を踏まえた学習支援のあり方について理解することを目指す。また、実践研修修了者の学習支援や認知症介護指導者としての自身の発展をにらみ、そのような学習支援を発展させたコミュニティの形成に関する基本的な考え方を理解する。	
内 容		備 考
1. 成人教育学の基本的考え方	成人教育の基本的考え方を理解する。 1) 成人の特徴 2) 教育と学習支援 3) 成人学習者の特徴（自己決定性、経験の観点から） 4) 成人学習のプロセス 5) 意識変容の学習プロセス	
2. 教育者の役割と倫理	成人教育における教育者の役割について理解し、教育者としての倫理感を養う。 1) 教育者の役割 2) 教育者の振り返りの重要性 3) 教育者の倫理	
3. 学習支援の方法	成人教育の考え方に基づいた、学習支援の方法について理解する。 1) 振り返りの方法 2) 振り返る意味 3) 学習者のコミュニティ形成	

教科名	認知症ケアに関する研究法の概論	研修形態と講義時間： 講義・演習（3時間）
目的	認知症ケアについての学術的な課題設定、データ収集、分析及び評価などの方法を理解する。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 認知症ケアにおける学術的な研究の考え方とプロセスを概観する。 2. 認知症ケアの実践を取りまとめる際の研究課題の設定のあり方を理解できる。 3. 介入方法に合わせたデータ収集の方法を理解できる。 4. 研究結果の分析、結果報告のポイントを理解できる。 	
概要	<p>認知症介護指導者は、実践研修をはじめとした地域における取り組みにおいては、データや根拠に基づいた実践を推進する立場となるほか、受講者の実践事例報告に対する指導を行う立場になる。そのため、データに基づき公平・公正に物事を捉える視点や認知症ケアの研究報告を読み解く力を修得していく必要がある。そのような力量は、認知症介護指導者となったのちにも自己学習等により高めることが期待されるが、本教科はその第一歩として認知症ケアの実践研究のプロセスを概観し、職場研修に取り組みその結果を報告するために必要となる研究的な考え方を理解することを目指す。</p>	
内 容		備 考
1. 学術的な研究の考え方とプロセス	<p>学術的な研究の考え方とプロセスを概観する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 研究とは 2) なぜ仮説・検証が必要なのか 3) 研究の過程 	
2. 研究課題の設定	<p>認知症ケアの実践を取りまとめる際の研究課題の設定のあり方を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 問題意識・興味から明確な課題へ 2) 因果と説明 3) 研究のデザイン 4) データを集める方法 5) 倫理的配慮 	
3. 介入方法に合わせたデータ収集の方法	<p>介入方法にあわせたデータ収集のあり方を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 介入とデータ収集 2) 尺度の種類 	
4. 分析と仮説の検証	<p>収集したデータの分析と解釈の考え方を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 質的データ・量的データの整理・分析 2) 考察・仮説の検証 	
5. 研究成果のまとめ方やプレゼンテーション	<p>研究成果のまとめ方及びそのプレゼンテーションの仕方を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 背景、目的、方法、結果、考察 2) 倫理的配慮の示し方 3) 結果と考察の違い、目的と考察の対応等 4) プレゼンテーションの方法 5) パワーポイント・ポスター作成のポイント 6) 質疑応答のポイント 	

教科名	職場研修企画 職場研修 職場研修報告	演習（14時間） 研修形態と講義時間： 実習（4週間） 演習（14時間）
目的	研修で学んだ内容を生かして、認知症ケアにおける研修企画、その実践及び評価をすることができる。職場研修における取り組みの成果を分かりやすく報告することができる。	
到達目標	1. 認知症ケアにおける研究的な取り組みを企画することができる。 2. 企画に基づいて職場研修の実践及び評価ができる。 3. 職場研修における取り組みの成果を分かりやすく報告することができる。	
概要	認知症介護指導者は、実践研修をはじめとした地域における取り組みにおいては、データや根拠に基づいた実践を推進する立場となる。またその役割として、認知症介護実践研修における職場研修においては、受講者の実践事例報告に対する指導を行う立場になり、データに基づき公平・公正に物事を捉える視点や認知症ケアの研究報告を読み解く力を修得していく必要がある。本教科はその第一歩として職場研修企画書に基づき、職場研修を実施し、まとめる過程を通じて、認知症ケアにおける研究的な取り組みの企画と実践、評価及び報告について体験を通じて理解することをねらう。	
内 容		備 考
【企画立案】 1. 職場研修に関するオリエンテーション 2. 職場研修企画書の作成	職場研修の実施方法や先駆的实践事例を理解する。 1) 職場研修の目的 2) 職場研修企画書の構成と記入方法 3) 職場研修企画書及び研修報告の実践事例の紹介 期間内に実現可能な職場研修の企画を立案することができる。 1) 取り組む課題及び目的の決定 2) 職場研修における取り組みのねらいの検討 3) 取り組みの評価方法の検討 4) 自施設事業所の管理者等上司への確認	
【職場研修の実践】 3. 企画書に基づいた各職場における取り組みの展開	職場研修企画書に基づいて、各職場において職場研修を展開し、結果を取りまとめる。 1) 協力者に対する説明と同意 2) 企画書に基づいた取り組みの展開 3) 取り組みのフォローアップ 4) 取り組みの成果の評価 5) 報告資料のとりまとめと提出	・研修の経過に応じて、センタースタッフの指導を受けながら進める。
【職場研修成果報告】 4. 職場研修における取り組み成果の報告	職場研修での取り組み成果を分かりやすく報告することができる。 1) 職場研修における取り組み成果の報告 2) 質疑応答	

教科名	地域における認知症の人への支援体制づくり	研修形態と講義時間： 講義・演習（4時間）
目的	地域包括ケアシステムや認知症の人を支えるための関係機関との連携体制の構築についての基本的考え方を理解し、地域において認知症の人に対する支援体制に関する課題解決の提案ができる。	
到達目標	1. 関連機関等との連携体制における指導者の位置づけと役割を理解できる。 2. 認知症の人を支えるための地域連携に必要な基本的考え方を理解できる。 3. 認知症の人を地域で支えるための取り組みのあり方について理解できる。	
概要	認知症介護指導者は、地域において行政の施策に則った役割を果たしていくことが期待されている他、地域における認知症の人の生活の質向上や住み慣れた地域で生活を継続できることを目指した様々な取り組みを実践しているケースも報告されている。また、実践研修においては、認知症の人を地域で支えるための基本的な考え方を教育する立場にもなる。本教科では、指導者の地域での活動の推進や実践研修での授業の展開など指導者としての取り組みを推進する上で重要となる、地域連携についての基本的考え方や取り組みの実践事例について理解する。	
	内 容	備 考
1. 関連機関等との連携体制における指導者の位置づけと役割 2. 地域資源を活用した関係機関等との連携やネットワーク構築におけるポイント 3. 医療・介護連携等の課題別の実践事例 4. 地域における認知症の人に対する支援体制の目標と課題の整理	地域で認知症の人を支えていく際に関連機関とどのように連携を図ればよいか、指導者の位置づけや役割を理解する。 1) 地域資源との連携体制を構築する際の指導者の位置づけ 2) 地域資源との連携体制を構築する際の指導者の役割とその具体例 3) 具体例の成功の要因分析、必要となる能力・行動の理解 指導者として地域で活動する際の関連機関との連携やネットワークのポイントを理解する。 1) 関係機関との連携やネットワーク構築のポイント 2) 他事業所・他機関、他職種の理解と関係づくり 医療介護連携等、課題別の実践事例を理解する。 1) 地域住民・家族の啓発 2) 医療と介護の連携 3) 専門職間のネットワーキング 4) 認知症の人の行方不明対策 5) セルフネグレクト・介入を拒否する事例 等 6) 質疑応答・ディスカッション 以上の学習を踏まえ、自己の目標と課題を整理する。	

教科名	他施設・事業所の指導のあり方	研修形態と講義時間： 講義・演習（4時間）
目的	認知症の人の生活における課題解決のため、他施設・事業所（特に在宅サービス）の認知症対応力の向上に向けた指導ができる。他施設・事業所を指導するための態度や視点、関わり方を理解する。	
到達目標	1. 認知症対応力向上の取り組みに際して必要となる知識・技術を理解できる。 2. 地域における介護施設の認知症対応力向上に関する具体的実践を理解できる。	
概要	認知症介護指導者は、他施設・事業所の認知症対応力向上のための取り組みを推進する役割が期待されている。この役割を果たすためには、対象施設・事業所の認知症ケアの質が実際に向上するような助言・指導をできる能力が求められる。本教科では、当該事業における認知症介護指導者の介入が実際に効果のある働きかけとなることを目指し、対象施設・事業所を理解するための態度・視点や実践に活かすことのできる技術を修得することを目指す。なお、本教科では、特に在宅サービス従事者に対する指導を中心に検討する。	
	内 容	備 考
1. 他施設・事業所を指導するための視点やスキル	他施設・事業所を指導する際の視点や指導の際に必要なスキルを理解する。 1) 自施設・事業所と他施設・事業所の違いの捉え方（施設・事業所の過去・現在・未来を知ることの重要性） 2) アドバイスを受ける立場の理解 3) 他施設・事業所を理解するための情報源 4) 在宅における認知症の人の支援の特徴	
2. 先駆的実践の理解	他施設・事業所における認知症介護の指導を行った先駆的事例について、事業の位置づけ、具体的な実施手続き、相談内容やアドバイスの内容及びその結果、現在の課題と対応状況などを理解する。	
3. 課題分析及び行動計画（演習）	他施設・事業所の認知症介護の課題解決演習を行う。 1) 他施設・事業所（在宅サービス系）の課題の理解 2) 課題の発生している要因分析 3) 課題解決のための方法の検討 4) 課題解決のための方法の提案と討議	・インシデントプロセス法などを用いて、在宅サービスの認知症介護の課題解決について検討することを想定

教科名	他施設実習企画	研修形態と講義時間： 講義（1時間）
目的	他施設実習の目的及び展開方法を理解し、実習に臨むにあたっての倫理的な配慮や実習における指導のあり方について理解する。	
到達目標	1. 認知症介護指導者養成研修における他施設実習の目的、目標及び実習の流れを理解できる。 2. 実習に臨むにあたって求められる倫理配慮や提案のあり方を理解できる。 3. 認知症介護実践研修における他施設実習の指導のあり方について考察する。	
概要	他施設実習は、介護福祉士等の養成課程における実習と異なり、介護技術を学ぶのではなく、認知症介護指導者としてのスーパーバイズ能力の育成を目指して実施される。また、本実習は認知症ケアの現場での学習であるため利用者・家族・スタッフと直接的にかかわりながら、学習を進めることとなり、倫理的な配慮を適切に行うことが不可欠である。本教科では、効果的な実習を展開することを目指して、実習の目的や実習の展開方法を理解するとともに、実習に臨むにあたっての必要な倫理的配慮を理解することをねらう。	
内 容		
1. 実習の目的及び目標 2. 実習の流れ 3. 実習における倫理的配慮や評価及び実習施設の課題に対する提案方法	実習の位置づけ及び目的・目標を理解する。 1) 指導者研修における実習の位置づけ 2) 実習の目的・目標 実習の具体的な進め方を理解する。 1) 実習の流れ 2) 実習施設の決定方法 3) 実習における記録等 4) 実習施設とのその他の調整（服装、控え室、昼食、連絡先、担当者、その他） 5) 記録の書き方と提出方法 6) 実習施設が解決したい課題の取り扱い 7) 中間まとめ・最終まとめの方法 8) 実習の出欠確認 9) 感染症等発症時の取り扱い 実習における倫理的配慮を理解するとともに、実習の評価方法を理解する。 1) 実習生に求められる倫理 2) 最終まとめの方法 3) 実習の評価方法	備 考

教科名	他施設実習	研修形態と講義時間： 実習 3.5日(24時間)
目的	研修で学んだ内容を生かして、OJT、Off-JTに関する知識や技術を活用し、他施設・事業所の認知症ケアに対する指導を実践的に展開する能力を身につける。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 他施設・事業所において、課題に関する情報収集及びその分析ができる。 2. 他施設・事業所の認知症ケアの課題について、解決のための提案をすることができる。 	
概要	<p>他施設実習は、介護福祉士等の養成課程における実習と異なり、介護技術を学ぶのではなく、認知症介護指導者としてのスーパーバイズ能力の育成を目指して実施される。本教科では、これまで学習して知識・技術を駆使して、他施設・事業所の課題を捉え分析するための知識、技術を修得するとともに、他施設・事業所に対して、スーパーバイズを実践的に展開する能力を修得することを目指す。</p>	
内 容		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 課題に関する情報収集や分析 2. 実習施設に対する認知症ケアの課題解決のための提案内容の検討及び提案 	<p>他施設・事業所において、課題解決のための情報収集や情報を踏まえた課題分析ができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習施設における課題に関する情報収集・課題の焦点化 2) 課題の発生要因の検討（聞き取り・観察・記録の確認等による情報収集） 3) 課題の発生要因のとりまとめ <p>情報収集と課題分析の結果を踏まえて、課題の解決策をまとめ、わかりやすく提案することができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 課題の発生要因に合わせた提案内容の検討（提案内容検討、優先順位検討、提案方法、資料の検討） 2) 実習施設担当者との提案内容の検討 3) 実習施設において課題の発生要因と課題の解決策について提案と提案を踏まえてのディスカッション 	備 考

教科名	他施設実習中間報告	研修形態と講義時間： 演習（7時間）
目的	実習施設の課題の発生要因や課題に対する提案内容について、実習生同士で共有・検討することを通して、指導者としての態度や視点を深める。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習施設の課題の発生要因・提案内容について検討できる。 2. 実習施設に対する提案内容について、受講者間の討議を踏まえて精査する。 3. 実習においてさらに収集すべき情報を明らかにする。 	
概要	<p>本教科では、実習前半の取り組みを通じて、実習施設から提示された課題の発生要因や提案内容について検討する。検討結果を、実習生相互に共有・検討することにより、更に広く・深い視野で実習施設から提示された課題の発生要因や提案内容について検討する。そしてそのことを通じて、スーパーバイザーとしての自己洞察を深めることをねらう。</p>	
内 容		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習での取り組み成果のとりまとめ 2. 資料に基づいたプレゼンテーション 3. 今後の実習の方向性の検討 	<p>実習での取り組み成果を個人で取りまとめる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習施設から提示された課題の発生要因について資料作成 2) 実習施設に対する提案内容案について資料作成 <p>個人で取りまとめた実習の取り組み成果をプレゼンテーションする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 作成した資料に基づき、課題の発生要因及び提案内容案についてプレゼンテーション 2) プレゼンテーションを踏まえた質疑応答・討議 <p>プレゼンテーションと討議の結果を踏まえて、今後、実習においてさらに収集すべき情報を明らかにする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 質疑応答を踏まえた資料の修正 2) 今後の実習での取り組み内容の検討 	備 考

教科名	地域における指導の理論と実践（他施設実習総括）	研修形態と講義時間： 演習（7時間）
目的	他施設実習での成果を振り返り、指導者としての自己の課題を明らかにし、今後、地域で活用するにあたっての取り組みのあり方を検討する。	
到達目標	1. 他施設実習での実習の成果を振り返る。 2. 受講者相互の討議により、スーパーバイザーとして成長していくための今後の取り組みのあり方を明確化できる。 3. 自己のスーパーバイザーとしての課題及び取り組みの方向性を報告することができる。	
概要	本教科では、他施設実習において実践した内容を具体的に報告することにより、実習を振り返り、スーパーバイザーとして今後地域で活動するにあたっての自らの課題を明らかにすることをねらう。また、実習での学習成果を踏まえてグループワークを行うことにより、スーパーバイザーとしての自己の課題を整理する。	
内 容		備 考
1. 実習成果の振り返り	実習の成果を振り返り、実習成果を取りまとめた資料を作成する。 1) 実習施設の課題の発生要因、提案内容 2) 提案に対する評価 3) 以上を踏まえてのスーパーバイザーの自己の課題	
2. 実習生間の相互評価・助言	取りまとめた資料を基にして実習生間の相互評価を行う。 1) 他施設実習の振り返りの結果について相互評価 2) 相互評価を踏まえての資料修正	
3. 実習成果の振り返り結果報告	相互評価によって修正した資料を基にして、実習総括のプレゼンテーションを行う。	